

ヒアシンズハウスアートコロニー展

「記憶のありか」

2021年10月30日(土)～11月7日(日) 11:00～18:00(初日13:00から、最終日17:00まで) 会場:ヒアシンズハウス前庭

さいたまゆかりの3作家による、様々なジャンルの芸術文化活動を紹介し、アートコロニーを体感できる作品展です。会期中、作家は公開制作などを行い、公園利用者との交流も行います。参加費:無料



浅見俊哉(アーティスト)
「青写真の瓦版-2021」



石上城行(彫刻家、埼玉大学准教授)
「記憶の容 生きていた舟」



藤井彩加(舞踊家)
「万博」

ワークショップ①

現代アート「記憶の容—生きていた舟—(石上城行作品)」を鑑賞して★別所沼の古代魚を作ろう!

矢花俊樹(金工家、元 埼玉県立近代美術館エデュケーター)

11月7日(日) 1回目:10:30～11:15、2回目:11:30～12:15 (各集合は10分前)

対象:小学生から大人まで ※小学1、2年生は保護者同伴

定員:各回5名(参加者合計10名) / 材料費:500円

ワークショップ②

言葉と写真で綴るわたしの発見

加藤典子(加藤こどもの造形教室主宰)

11月7日(日) 13:45～16:00 (集合は10分前)

対象:小学生 ※保護者同伴。スマホを使って写真撮影。

定員:20名(子ども10名 保護者10名) / 材料費:500円



各ワークショップの申し込みはこちらで! (定員以上の場合は抽選) ▲

パフォーマンス

藤井彩加「万博」 11月7日(日) 13:00～13:30

アーティストトーク

浅見俊哉、石上城行 11月7日(日) 14:00頃から

SMFラウンドテーブル2021

これからの文化芸術活動を創造する為の対話集会

本企画、SMFラウンドテーブル2021「これからの文化芸術活動を創造する為の対話集会」は、新型コロナウイルス(COVID-19)の影響で、文化芸術活動の在り方や役割について改めて、再考する機会の必要性を感じ、プロジェクトの締め括りの企画として開催します。

ウィズコロナ時代の文化芸術活動のプラットフォームづくりを目的として、プロジェクトを行う中で、様々な人たちに意見を聞く「これからの文化芸術活動を創造するためのアンケート調査」を行いました。その結果を元に、意見交換の為の視座を共有します。

SMFがこれまで活動する中で培った人と人とのネットワークを生かし、登壇者の方々とはいじめ、文化芸術活動を支える様々な領域の人たちと関連に意見を交換しあい、しなやかでたくましい文化芸術活動をつくる為のアイデアを共有したいと考えています。



12月5日(日) 14:00～17:00 別所沼会館大会議場 ●資料代:500円

ラウンドテーブルの申し込みはこちらで! (定員以上の場合は抽選) ▲

●第一部:14:00～15:20

人々にとってアートとは? そして建築は何故アートに入らないのか?

—アンケート調査を通して、領域横断的なアートプラットフォームづくり考える—

登壇者:プロジェクトを通して選出

●第二部:15:30～16:50

これからの文化芸術活動の在り方や役割を再考する

登壇者:建畠哲(詩人、美術評論家、埼玉県立近代美術館館長)

芹沢高志(アートディレクター、都市・地域計画家、翻訳家)

三浦清史(建築家、SMF代表)



●新型コロナウイルスや天候などの影響により、プログラムの中止または内容を変更する可能性があります。予めご了承ください。

主催:SMF(サイタマミュージアムフォーラム) / 助成:令和3年度オール埼玉で彩る文化プログラム公募事業 / 協力:ヒアシンズハウスの会・新木場倶楽部 ●プロジェクトディレクター:浅見俊哉(SMF運営委員)・プロジェクトコーディネーター:三浦清史(SMF代表) / お問い合わせ:メール:smfartnagaya@gmail.com